

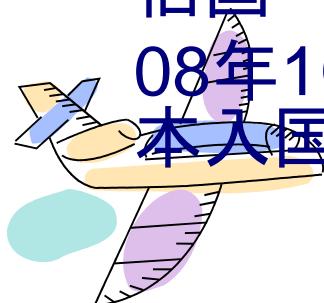
運輸サービス業界

2009年の回顧と2010年の展望

2010.02.09

航空業界 – 2009年の回顧

- 国内線 総需要58,300千人(前年比 +13.2%)
伯国主要航空会社構成比
TAM 45.6% GOL/VARIG 41.4% その他13.0%
- 國際線 総需要 9,410千人(前年比 – 1.4%)
伯国航空会社構成比
TAM 86.5% GOL/VARIG 13.4% その他0.1%
- 燃油費:金融危機以降値下がりしたものの、09年6月
から高止まりになっている
- 伯国＝日本間の動向
08年10月以降、伯国への日本出国者が、伯国から日
本入国者数を大幅に上回る状況が継続している。



航空業界 – 2010年の展望

- メジャー航空会社のサバイバル



- 日本=北米間オープン・スカイ開始

海運業界 – 2009年の回顧



コンテナ荷動き動向 (TEU=20'コンテナ換算)

	輸入			輸出		
	2008	2009	増減	2008	2009	増減
米国東岸	203,000	148,200	-27%	259,000	198,200	-23%
欧洲・地中海	482,800	370,500	-23%	738,300	628,300	-15%
アジア	655,600	527,200	-20%	298,300	341,800	+15%
全航路	1,655,500	1,319,900	-20%	2,112,500	1,908,700	-10%

海運業界 – 2009年の回顧



コンテナ船

- 2009年の輸出は191万TEU(前年比-10%),輸入は132万TEU(前年比-20%)であった。アジアからの輸入は後半回復したものの前半の落込みをカバーできなかった。 レアル安やマーケット多角化のためアジア向輸出のみ前年比15%増になった。

鉄鉱石船

ケープサイズの市況は、08年秋頃まで暴騰していたが、その後暴落。09年は底値からスタートし、6月には最高値をつけ後、軟化と回復を繰り返している。

海運業界 – 2010年の展望



コンテナ船

- 各国政府は景気刺激策を取っているが、欧米向け荷動き回復につながっていない。中国を中心とするアジアからの輸入は、09年後半から回復基調だが、レアル安に振れると荷動きに敏感に影響する。

ドライバルク

- 中国の鉄鉱石輸入増のみならず、日本、欧米、韓国の粗鋼生産も回復しており需給はタイト。短期的には中国の購買動向により乱高下するが、マーケットは堅調に推移する。

フォワーダー業界 – 2009年の回顧



- 日本発輸出航空貨物実績

全世界向け 826千トン (前年比 - 28. 5%)

米州向け 169千トン (前年比 - 31. 5%)

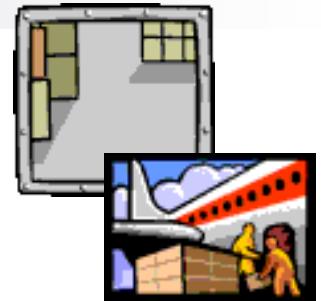
うちその他米州 11880トン (前年比 - 35. 6%)

- 日本発ブラジル向は業種により好不調が分かれ、全体として貨物増に繋がらなかつた。一方、減便や機材のダウングレードによりスペース確保は困難

- 製鉄構内物流

鉄鋼業の減産により大きな影響を受けた、7月以降回復してきたが、上期の落込みをカバーできず。

フォワーダー業界 – 2010年の展望



- 航空貨物、海上貨物

電機・自動車の増産による物流増を期待。
またブラジルへの新規進出増による貨物増も期待。
本年は大統領選挙の年でもあり連邦公務員の
ストの懸念があり。

- 製鉄構内物流

生産は回復に伴い構内作業量も増加し、凍結されていた投資案件も再開の見込みだが、競争環境は厳しい

- クーリエ

09年末からクーリエ貨の電子通関システム HARPIA
が稼動開始。混乱が続いており要注意。

ホテル・観光業界 – 2009年の回顧



- 観光収支

ブラジル人の海外旅行支出 53億ドル(前年比-8%)

外国人のブラジル旅行支出 109億ドル(前年比-0.6%)

- 国内旅行 金融危機の影響なく、前年を上回る

宿泊利用率(65%)

ホテル・観光業界 – 2010年の展望



- 3月のインディレースをはじめ、多くのイベントがあり、2010年も好調を期待。
- また、2014年のワールドカップ、2016年のオリンピックに向けホテル投資も増加している。

通信・IT業界 – 2009年の回顧



<通信>

- 携帯電話加入者数: 1億7400万台(世界5位)
- 3G携帯: 699万台
- ナンバーポータビリティ: 受付442万台、移行340万台
- 固定電話加入者数(09年9月): 4160万台
- インターネットユーザー数(09年9月): 4664万人
- ブロードバンドユーザー数(09年9月): 1110万台

<IT>

- IT産業全体の成長率は9.3%ながら、収益は苦しい

通信・IT業界 – 2010年の展望



- SAS(サービス提供会社の持つソフトを使用料を払って使う形態)でビジネス分析やCRMの利用
- 企業内でのSNSツールの活用
- 仮想サーバー、クラウド コンピューティング
- データ センターの活用 (大停電対策)

ご清聴ありがとうございました